

蒲生干潟の植物55 分布調査 2026年5月27日



図1 定点観測 水量が非常に少ない



図2 コマツヨイグサとメマツヨイグサが優占するエリアG



図3 成長してきたハママツナ



図4 大きく伸びたヨシ



図5 コウボウシバの穂



図6 開花したハマヒルガオ



図7 ブタナ



図8 ヘラオオバコ

調査日 2026年5月27日（水）10:50～12:15

全体的に水量が非常に少なく、エリアBで先月は水没していたハママツナは青々と葉を伸ばし成長していた（図1）。エリアAのヨシは背丈を超えるほど大きく成長し穂をつけていた（図4）。ヨシ原の中からはオオヨシキリの鳴き声が盛んに聞こえていた。コウボウシバやコウボウムギはエリアC、D、F、Hと広い範囲で見られた。図5はコウボウシバの特徴的な雌小穂である。先月芽を出して広がっていたハマヒルガオは各エリアで一斉に開花していた（図6）。日和山付近の防潮堤の法面にも花を咲かせたハマヒルガオが広がっていた。図7, 8はエリアFで見られたブタナとヘラオオバコである。どちらも外来種で乾燥した土地を好む種であり、海浜性の植物ではない。エリアFの南側からエリアGは、増水したとしても水に浸かることはないと考えられる範囲である。特に乾燥したエリアGでは、コマツヨイグサとメマツヨイグサが完全に優占し（図2）、海浜性の植物は見られない。

「蒲生干潟の植物①」（丹野，2020）では同じエリアで『ハマヒルガオやハマニガナの若い葉がたくさん見られた』と報告されている。エリアGはこの数年で適度に湿り気を含んだ砂浜的環境から、砂が動かない固く乾燥した内陸の荒れ地的な環境へ大きく遷移したことが分かる。

（伊藤勝彦）